



2. 科目履修上の注意

全学共通科目について

「全学共通科目群」は、全学部で共通に開講する科目群であり、「共生」「健康・スポーツ」「キャリア」「外国語」「日本語」「人文」「社会」「自然」「日本文化」「情報」「海外研修」の区分で構成されています。

これらを通して、共生（ともいき）と勤儉誠実の考え方、及び幅広い教養を身につけます。

1. 「共生」の分野では、「共生人間論Ⅰ（ブッダと法然）」「共生人間論Ⅱ」「共生人間論実習」を開講し、仏教の立場から「共生」について考察します。具体的には、環境や他者の存在により自己が生かされていること、自己中心的な在り方の反省、自己能力の惜しみない提供、相互補完の精神などを学びます。これらを通して、共生と勤儉誠実の考え方を身につけます。
2. 「健康・スポーツ」の分野では、「スポーツ」の実技授業として、バドミントン、テニス、バスケットボールなどを開講します。これらを通して、健康づくりの習慣や、自己管理能力・チームワークなどの態度を身につけます。
3. 「キャリア」の分野では、「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」を開講します。これらを通して、職業人として働くことの意義を理解し、社会の発展に貢献する態度を身につけます。
4. 「外国語」の分野では、「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」「総合英語Ⅲ」「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」「ポルトガル語Ⅰ」「ポルトガル語Ⅱ」「英語リーディング」「英語ライティング」「英語ディスカッション」を開講します。これらを通して、外国語を的確に読み、書き、聞き、話す能力を身につけるとともに、グローバルな視点を持って異文化理解へとつなげます。
5. 「日本語」の分野では、「日本語表現法 A（音声）」「日本語表現法 B（文章）」を開講します。これらを通して、日本語を的確に読み、書き、聞き、話す能力を身につけます。
6. 「人文」の分野では、「日本の歴史」「世界の歴史」「異文化理解」「哲学の基礎」「倫理学の基礎」「心のメカニズム」「日本の文学」「外国の文学」を開講します。これらを通して、多様な文化、思想、歴史について理解するとともに哲学、倫理、心理、文学について理解し、幅広い教養を身につけます。
7. 「社会」の分野では、「憲法と基本権」「社会生活と法」「暮らしと経済」「市民生活と政治」「国際事情」「社会福祉学の基礎」「現代社会と生活」「地域社会と共生」を開講します。これらを通して、幅広い教養を身につけるとともに、社会と人間とのかかわりを理解します。
8. 「自然」の分野では、「生活と環境」「自然と環境」「生命の科学」「生活と化学」「数学入門」を

開講します。これらを通して、幅広い教養を身につけるとともに、自然や環境と人間とのかかわりを理解します。

9. 「日本文化」の分野では、「日本文化論」、さらに「日本の文化（書道）」「日本の文化（華道）」「日本の文化（舞踊）」「日本の文化（陶芸）」を開講します。芸能としての書道・華道、祭礼と関わる舞踊、物づくりの原点としての陶芸を通して、日本各地に伝承される地域文化を比較研究し、本質を考え、その上で日本文化の深層を見極めます。
10. 「情報」の分野では、「情報リテラシー A」「情報リテラシー B」を開講します。これらを通して、情報通信技術を用いて多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用する技能を身につけます。
11. 「海外研修」の分野では、本学の提携校における留学経験を通し、語学力を高め、異文化理解を深め、自ら考え行動する力を身につけます。

有資格者の単位認定について

下記に掲げる資格を有する学生は、証明書を持参の上、履修登録開始日から履修登録確認・訂正最終日(16:30)までに教務課へ申し出てください。審議を経て、下記に準じた単位が認定されます。

授業科目名	単位数	認定基準
総合英語Ⅰ／総合英語Ⅱ／ 総合英語Ⅲ／ 英会話Ⅰ／英会話Ⅱ／英会話Ⅲ	2	実用英語技能検定試験 2 級 TOEFL 450 点以上 520 点未満 TOEIC 520 点以上 640 点未満
	4	実用英語技能検定試験準 1 級 TOEFL 520 点以上 550 点未満 TOEIC 640 点以上 810 点未満
	6	実用英語技能検定試験 1 級 TOEFL 550 点以上 TOEIC 810 点以上
中国語Ⅰ／中国語Ⅱ	2	中国語検定試験 3 級以上
韓国語Ⅰ／韓国語Ⅱ	2	韓国語能力試験 2 級以上
フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ	2	実用フランス語技能検定試験 3 級以上
ポルトガル語Ⅰ／ポルトガル語Ⅱ	2	外国語としてのポルトガル語検定試験 (APLE) 準初級以上 ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験 (CELPE-Bras) 中級以上

注 1. この制度の運用は内規により行います。

2. すでに単位認定された科目についての申請は認めません。

スポーツ健康科学部科目について

次にあげる科目は履修登録や成績評価、授業の方法等において特徴のある科目です。履修登録前に熟読し十分な理解をしておいてください。

① 同一科目名の再履修について

単位を修得できなかった科目を、同一年度内に再履修することはできません。

② 共生人間論実習について

本学の目指す人間論は、頭や学問で理解するだけでは不十分であり、人間としての共生の生きざまを実践的に修得してはじめて身につく、という考え方に立っています。

「共生人間論実習」は選択科目です。「共生人間論Ⅰ(ブグダと法然)」の授業を受けたうえ、自ら選択した施設等において4日間の実習に臨みます。

具体的な実施の方法は、下記のとおりです。

ア. 実習の対象となる学生にガイダンスを実施します。

イ. ガイダンスを受講し、実習の趣旨を十分に踏まえた上で各自が実習内容を立て、科目担当者の了解を得ます。

ウ. 実習内容の了解が得られたら、実習期間・施設などの内容を確定して報告承認を得ます。実習内容に沿った施設選択などは各自が交渉し、了承を得ることになります。

エ. 施設などで4日間の実習を行い、終了後『実習記録』を提出します。

オ. 事後報告会に出席し、実習で学んだことを報告・討議します。

③ 演習科目について

ア. 基礎演習は、基本的な学習スキル、読む・聞く・見る・検索するなどの情報収集能力及び必要な情報を取捨選択する能力や、その情報に基づいて結論を導く能力、その結論について書く・話すなどの表現・発信の能力を訓練するための必修科目です。各クラス20名程度で編成されます。

基礎演習Ⅰ・Ⅱのそれぞれの到達目標はどのクラスも同じです。

イ. 専門基礎演習は学生自身が主体的に一定のテーマに沿って実践的に学び、専門的知識を深め、その結果をまとめ、発表できる能力をつけるための必修科目です。

ウ. 専門演習は、各教員の専門分野を中心に指導を受け、各自の興味のある課題について調査・研究し、ゼミで発表する過程を通じて卒業研究あるいは研究成果の作成へと発展させていく、重要な必修科目です。各ゼミ15～20名程度で編成します。ゼミを自由に選択できますが、専門演習Ⅰ・Ⅱ(3年次)、専門演習Ⅲ・Ⅳ(4年次)は、原則として同じゼミに所属してください。